

俳 雑

第20回

【連作句《大河内伝次郎》】

八木 忠栄

若い方はご存じないかもしれませんが、むかし大河内伝次郎という俳優がいた。時代劇を中心に出演した映画の数はおびただしい。好きだったなあ。「忠次旅日記」「血煙荒神山」「関の弥太っぺ」「丹下左膳」「水戸黄門」…。「しえいは丹下、名はしゃじえん」で、よく知られる代表作「丹下左膳」には、17本出演しているという。スクリーンで見た人も多いと思う。小柄だったが、走って跳びあがって、ぶった斬る。スピードのある殺陣が忘れられない。セリフまわしも独特だった。子供の頃、私は得意になって、あの声を声帯模写したものだ。

伝次郎が俳句を作っていたかどうかは知らない。ここではそういうことではない。伝次郎が好きなのは、あるとき思い立って《大河内伝次郎》という連作句を憑かれたように作ったことがある。21句だった。その一部を遊びとし失笑を覚悟して、ここに紹介してみよう。

大河内伝次郎西瓜をまつぶたつ

肩口から大河内伝次郎紅葉す

ちやんちやんこ笑ふ大河内伝次郎

嵯峨野の「大河内山荘」で伝次郎が笑う声、ガッハッハ。